

— 虫探しを楽しむ幼児の事例から —

事例の概要

思い思いの虫探しをしていたA児、B児、C児、D児は、次第に同じ場を集って楽しむようになった。アリの収集に注目が集まるとうれしくなったA児は、自分の発見をアピールし始めた。また、B児が、違う珍しい虫を発見するとA児も興味をもった。「謎虫」と呼ぶことで、より虫探しが盛り上がった。A児は「謎虫チームだね!」と同じ場の仲間を意識して喜んでた。数日後、B児とD児は、「謎虫」の遊び場のプールづくりを楽しみだした。A児は、仲間に何も言わずにプールに水を入れ始め、突然「みんなで力を合わせて~!」と声を上げた。C児は、「今は行けないよ」とA児に思いを伝えるが、A児は納得できない様子だった。B児、C児は返事をせず、思い思いに遊んでいた。

それぞれの幼児の姿と見取り

A児

思いのままに行動するので周りの友達が驚いてしまうことがある。

B児

周りの様子をよく見て行動している。自分のペースで遊ぶことができるよ。

環境に積極的に関わる(ヒト・モノ・コト) 失敗しても、へこたれない!

C児

友達の面白そうな様子も気になるんだけど・・・友達と関わるのは不安。

D児

教諭の思いや願い

A児の好きなことをみんなに知ってもらい、友達と遊ぶ楽しさを味わってほしいな。

B児には、もっと自分の考えを発信してほしいな。

C児のへこたれない姿を「謎虫チーム」のみんなに傍で感じてほしいな。

D児は、友達との遊びにドキドキしているけれど、その経験も大事だね。

Aちゃんの好きなことって面白そうだね!

一緒にやってみよう!

「謎虫」の話の皆に聞いてもらいたい

今は行けないからね!

みんなで力を合わせて~

何て返事しようかな

環境の構成と援助

一人一人がその子らしさを発揮しながら、友達との関わりを通して学びを深める環境の構成と援助とは

- ・どの幼児も楽しい遊びが基盤となって「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」が育っていくことを踏まえ、一人一人の興味・関心や思いを捉えて、環境の構成や援助をしていく。
- ・一人一人の幼児のありのままの姿を受け止め、友達と関わる経験の積み上げを支える。
- ・情緒の安定のために、少人数のいつもの気の合う仲間と過ごせる場や教師と個別に関わることができる環境等、幼児の心地良い遊びの場を構成し、一人一人の楽しんでいることを保障する。
- ・「謎虫」など、その遊びのキーワード(共通のことば、呼び方)をつくることでイメージの共有を図り、仲間意識が芽生えるようにする。
- ・教諭も仲間になって遊びながら、動きや視線、物的環境の提示等で関わりや会話をつなぎ、仲間同士の温かい集団を育む。
- ・教諭は一人一人の「その子らしさ」(課題面も含む)を捉え、肯定的に丸ごと受け止めて関わる大切である。その教諭の姿を見せ続けることで、幼児にとっての人との関わり方のモデルとなる。

幼児一人一人の良さや課題が絡み合う集団生活での子どもの見方のポイント

今後に向けて

一人一人の幼児を多面的に捉えて、その子らしさを理解する。

友達との関わりでは、思い通りにいかないこともあるが、遊びの楽しさと両方を体験しながら、学んでいるという視点で捉える。

- ・遊びの中では、人との関わりでうまくいなくて不安を感じることで、遊びの楽しさが勝る園生活になるよう一人一人が遊び込める環境をつくり、互いの思いを出し合えるように教師が支える必要がある。
- ・多様性を受け入れていく基盤が遊びの中で育っている。園では、教諭を出発点にして、遊びを通して友達との関係づくりをしていく。